



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2015年 No.2

(通巻39号)

4月26日発行



花のさかりも過ぎ、新緑の季節へと移りつつあります。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

今号は、年次総会報告、2月～4月までの活動報告、そして、5月からのイベントのご案内と、豊富な内容でお届けいたします。

新年度がスタートし、運営委員一同、心も新たに頑張っておりますので、ますますのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2015年度年次総会報告

去る3月1日(日)、相鉄線星川駅近くのほ도가や市民活動センター(愛称:アワーズ)で年次総会を行いました。昨年同様、開会前に会食会をもち、ディウフ会長手作りのチェブジェン(セネガルの国民食と言われている、魚の炊き込みご飯)と柳田副会長作のサラダ(ベビーリーフとナッツ)をいただきました。とてもおいしかったです。

また、総会中盤では、2月8日(日)のよこはま国際フォーラムで行った、ディウフ会長と柳田副会長によるセミナー「イスラムと教育」を紹介しました。ISなど、イスラム過激派の動向が憂慮される現在、まさに旬のテーマということで、熱心に聴いていただきました。

以下、その他の主な内容をご報告いたします。

2014年度活動報告

国内活動

*「よこはま国際フォーラム 2014」2月9日(日) JICA 横浜、「あーすフェスタかながわ 2014」5月17日(土) 18日(日) あーすプラザ、「かながわく国際交流まつり」5月25日(日) 沢渡中央公園、「第5回 GOSPEL FOR PEACE」5月31日(土) 新宿文化センター、「よこはま国際フェスタ 2014」10月18日(土) 19日(日) に参加しました。

*バオバブの会自主企画として「福引 2014」を開催し、10月から福引き券を販売、12月7日(日)には抽選をかねた「バオバブパーティー2014」を行いました。

*ニュースレターは、6号、発行しました。

国外活動

*昨年と同様、サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、サルム・ジャネ中学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、サーバシ・チャム アラブ学校、障がい児を支援する教師の会に定期支援金を贈り、また、新たに、バンプガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校、ユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾啞学校)の4校に定期支援金を送りました。

*ンジャゴ小学校図書館の図書代として、500,000Fcf (114,000 円) を贈りました。

*バンブガール・マサンバ小学校にトイレ 3 基とベンチ付き長机 20 個、ンゴディバ フランコアラブ学校にトイレ 3 基とベンチ付き長机 40 個を贈りました。

2015 年度活動計画

国内活動

*「セネガル物語 2015」3月7日(土) 神奈川公会堂、「あーすフェスタかながわ 2015」5月16日(土) 17日(日) あーすプラザ、「ゴスペルスクエア 7周年コンサート」8月2日(日)
@さくらホール<渋谷>出展の他、秋には、例年通り、「よこはま国際フェスタ」(秋開催見込み)に参加します。

*その他、会主催イベントの開催とホームページの充実を予定しています。

セネガル支援

今年度から、定期支援の金額については、3年をひとくぎりとして、段階的に減額していくことになりました。支援先の自主努力、自立を目指すためと、できるだけ多くの学校を支援していきたいためです。

(1) 2012年度以前からの支援校・グループ(支援開始後3年以上経過)は今年から減額。
サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、障がい児を支援する教師の会には 40,000 円、サルム・ジャネ中学校には 80,000 円送ります。

(2) 支援開始後3年未満の支援校・グループは、昨年と同額を送ります。バンブガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校は 50,000 円、サーバシ・チャム アラブ学校とユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾啞学校)には 30,000 円を送ります。

(3) 今年度からの新規支援校

ジム・モマール・ゲイ中学校に 100,000 円を送ります。

*ジム・モマール・ゲイ中学校は、ディウフ会長の叔父のジム・モマール・ゲイ氏の名前を冠した、同氏の出身地カオラックにある中学校です。

*** なお、今年度は、定期支援以外の施設整備等はありません。

活 動 報 告

★「よこはま国際フォーラム 2015」 <http://yokohama-c-forum.org/>

日時：2015年2月7日(土) 8日(日) 11:00~19:00 (バオバブの会によるセミナーは8日 14:00~14:50)

会場：JICA 横浜

主催：よこはま国際フォーラム 2015 プロジェクト

国際協力や多文化共生に関わる 50 団体が講座を開く恒例のフォーラム。バオバブの会は、ディウフ会長が「イスラムと教育」というテーマでセミナーを行いました。内容はムスリムの 5 つの戒律やジハードの意味など「本来のイスラム解釈」、「アフリカで過激派が生まれる背景」「セネガルにおけるイスラム教育」

を三本柱とし、シャルリー・エブド誌の風刺画問題がセネガルではどうとらえられたかなども、お伝えしました。

折しも、“イスラム国” による人質事件をはじめとするテロ関連のニュースが、連日連夜報道されていたころ。セミナーは早々に満席となって立ち見の受講者もいたほど、強い関心を集めました。

イスラム関連のセミナーは、今後も機会があれば随時行っていきたいと思います。

★アフリカ音楽コンサート「セネガル物語」 Vol.6

<http://africulture.wix.com/africulture#!untitled/c1h8f>

日時：2015年3月7日（土）11:00～18:00 会場：神奈川公会堂 主催：アフリカルチャー

こちらも恒例、ダンスや太鼓のワークショップとコンサートをメインとするイベントです。バオバブの会は、ディウフ会長のセネガルのイスラムに関するセミナーと、ロビーでのケベサック（セネガルの女性グループ作成のアフリカプリント地のバッグ）や絵本等の販売、そしてコンサートでのディウフ会長の歌！で参加しました。

セミナーは「よこはま国際フォーラム」で行ったものとは少々内容を変え、セネガルでのムスリムの暮らしなども加えましたが、小学生からも質問が出るなど、やはり強い関心をもって聞いていただくことができました。

★さくら WORKS 関内「セネガルナイト」

日時：2015年03月27日（金）19:00～21:00 会場：さくら WORKS 関内

主催：横浜コミュニティデザイン・ラボ

音楽とダンス、セネガルとギニアの料理を楽しむミニイベントで、「セネガル物語」でもおなじみのマルチ太鼓奏者、オマール・ゲンデファルのバンドのほか、セネガルから来日中だったダンサー、イエリー・チョーンさんも出演。

バオバブの会は、ディウフ会長によるイスラム関連のセミナーと小規模の物販で参加しました。

セミナーは20分間の短いものだったうえ、お客さんの大半はすでにアルコールが入っていたにも関わらず、やはり強い関心を持たれ、食事やお酒の手を止めて熱心に聞き入る人たちが多々。オマールさんも聞いていたようで、セミナー後には「イスラムのことを伝えてくれてありがとう！」との言葉もいただきました。

★African House Party UNION

日時：2015年4月4日（土）18:30～23:00 会場：代々木 ANCE

こちらはレンタルスペースでのクラブ形式のイベント。プログラムは、セネガルから来日中のダンサー・イエリーさんによるスペシャル・ダンス・ワークショップ、女性ダンサーたちによるショー、アフリカ音楽とハウス音楽をミックスさせたDJタイム、そしてオマール・ゲンデファル・グループのライブ。バオバブの会は小規模の物販で参加し、おなじみケベサックの他、西アフリカのドーナツ、ベニエも販売しました。

バオバブの会がこれまで参加したことのないタイプのイベントでしたが、ベニエはクラブ乗りの若い男の子たちにも受け、セネガルに関する興味津々のさまざまな質問も飛び、完売となりました。

★★ディウフ会長、南郷中学校を訪問

ディウフ会長は、3月19日（木）、葉山町長柄の南郷中学校を訪問しました。1年生3クラス、約90人の生徒に、セネガルの紹介、セネガルの学校と勉強の内容、子どもたちの生活と考え方を話しました。また、紙芝居「みんなつながってる」を上演しました。

今後の出展イベント

*アフリカンフェスタ in ズーラシア <http://africazoorasia.web.fc2.com/>

日時：2015年5月2日（土）～6日（水） 9：30～16：30（入場は16：00まで）

会場：よこはま動物園ズーラシア ころころ広場（横浜市旭区上白根町1175-1）

主催：アフリカヘリテイジコミティー

♥会場へのアクセス

★相鉄線「鶴ヶ峰」駅と「三ツ境」駅、JR横浜線・横浜市営地下鉄「中山」駅から、よこはま動物園行きのバスで約15分。

★「横浜」駅からよこはま動物園行きのバスで約1時間（便数わずか）。

★相鉄線「鶴ヶ峰」駅から、中山駅行き・ひかりが丘団地行きで、また、JR横浜線・横浜市営地下鉄「中山」駅から鶴ヶ峰行きでその他、有料駐車場2200台分（駐車料：1,000円）完備

主催団体であるアフリカヘリテイジコミティーは、2009年設立の非営利活動団体です。アフリカヘリテイジには「アフリカの財産、受け継がれてきたもの」という意味がありますが、アフリカとアフリカにルーツを持つ国々の文化を伝え、特に未来を担う子どもたちに異文化理解、多文化交流の機会を与えることを目的に、神奈川県を中心とした各地でフェスティバルを開催してきました。

今回は、よこはま動物園のアフリカ動物コーナー（サバンナコーナー）開園を記念して、音楽、ファッション、民芸品、フードなど、幅広くアフリカ文化を紹介するフェスティバルを行います。子どもたちが楽しめるゲームもあります。

バオバブの会は、5月3日（日）、物販コーナーに出展し、ケベサックとアフリカ関連児童書を中心に販売を行う予定です。

*あーすフェスタかながわ2015 <http://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

日時：2015年5月16日（土）17日（日）

10：00～17：00

会場：あーすプラザ

横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1（JR根岸線「本郷台」駅 改札出て左に進み、徒歩1分）

異なる国籍、文化を持つ多くの人々が集い、出会い、それぞれの文化や考え方をアピールするとともに、互いを理解する機会を作るため、神奈川県内の民族団体、NGO、市民ボランティアなどが企画段階から協力して開催するものです。テーマは「みんなで育てる多文化共生」。屋台、バザール、フォーラム、民族楽器コンサート、

ワークショップなど、多彩な企画が用意されています。

バオバブの会は、昨年に続き、2度目の参加となります。屋台（食販）とバザール（物販）の2つのブースに出展し、屋台ではマーフェ（トマトとピーナツソースのビーフシチュー）サンド、ヤーサ（レモンとマスタードでマリネしたチキンと玉葱のシチュー）サンド、ベニエ（ココナツやレーズン入りアフリカドーナツ）、アターヤ（セネガル風ミントティー）、バザールにおいてはケベサック（セネガルのお母さんたち手作りのアフリカプリント布バッグとポーチ）、アフリカプリントを使った小物、アフリカ関連児童書等を販売します。

*7月出展予定のイベント、8月2日の「ゴスペルスクエア 7周年コンサート」につきましては、次号でご案内いたします。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ 第15回 「 バルマの4つの真実 」

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ （訳・文責 水野）

コッチ・バルマ注1 は、現在のセネガルの北東部にあったカイオール王国の哲学者でした。彼は当時の王様と親戚の関係にありましたが、王様また王様の家族とは一定の距離を置き、独立独歩を貫いていました。王様からのどんな贈り物も受け取ろうとしませんでしたし、助言者として会議に呼ばれたときしか、王宮に行くこともありませんでした。王様は、しばしば、国内外の政治や社会の問題といったやっかいごとについて、彼の意見を求めました。しかし、バルマは、その仕事が終わると直ちに王宮を去り、教えを授けるために、弟子たちのもとへと帰るのでした。

ある日のこと、バルマは、髪を大変に珍しい形に整えました。頭に4つの大きな髪房を作ったのです。まわりの人々は言いました。「バルマは、また、我々に何かを教えようとしている！」というのも、人々はバルマの奇抜な言行に慣れていて、バルマがそれらを通して伝えようとしていることに興味を持っていたからです。バルマの教えかたの基本は、解き明かす前にまず考えさせるところにありました。人々は、この髪形による新しい教えについて考えをめぐらし、解き明かしを期待しました。「この髪形の教えは、はて、何だろう？」

ほどなく、「それぞれの髪房がひとつずつの真実を語っているらしい」という噂が流れました。人々の興味はいや増し、それは王様にまで及びました。王様というのは、何か欲しくなったり何かをしたくなると、我慢することなく、それらを手に入れる力を持っているものです。そのため、すぐに、バルマの髪形の教えのひとつを知ることができました。けれども、それを知ったとたん、王様はかんかんになり、バルマに死刑を言いわたしました。

バルマは王宮の前に連れてこられました。バルマが死刑になる、という噂はたちまち王国中に広がり、四方八方から人々が集まってきました。王国の歴史に残るであろう出来事を一目見よう、という人々もいましたが、多くの人々は、この高名な哲学者に同情をよせていました。

その頃、ある村に、ひとりの老人がいました。彼は、歩くのもやっとなほど年をとっていましたので、家族に頼みました。「わしをバルマが死刑になるところまで連れて行ってくれ」と。そこで、家族は、老人を

ロバの車に乗せ、その車を孫のひとりにひかせて送りだしました。

老人と孫は、王宮めざして進みました。長い道のりを、互いにからかいあいながら注2。

「おじいちゃん、足が丈夫じゃない者は、人が集まるところなんかには行かないものだよ。自分の定めを受け入れて、見てきた人の話で満足するべきじゃないか。人が大勢集まると何があるかわからないよ。『逃げるぞ!』って騒ぎになったら、おじいちゃん、どうするの?その足は助けにならないよ」

「助けてくれるのは、足じゃなくて、神様だ。それに、わしは、お前のように臆病じゃない。お前は、わしが、臆病者のように、危険の前で逃げると思うのかい? わしは本物の男じゃ!逃げずに、立ち向かう」

「なるほど、おじいちゃんは、その口で危険に立ち向かうんだね。おじいちゃんの口には、誰もかなわないからなあ。＜空のつぼが音を出す＞注3ということわざを知ってる?まあいいさ。ひとつだけ言っとくけど、連れて行くのはこれが最後だよ。どっちみち、おじいちゃんはあそこへ行ったって何もできないんだから。おじいちゃんは、ただ、見たい、知りたい、って気持ちだけで行くんだろ?人が死刑にされるのを見て、どうするの?」

「知りたい、っていうのは、悪いことじゃないさ。人は、その場にいれば何かを学ぶ」

「ぼくは、今度のことでおじいちゃんが何かを学ぶことができるのか、わからないな。だけど、ウォロフのンジャイ注4が＜集まりのとき、一番気楽な役割は、黙って見ていること＞と言うのを忘れちゃいけないよ。おじいちゃんは、いつだって、何にでも口をだすんだから。とりわけ、関係ないことにね。お願いだから、何が起こっても、黙っていてよ!」

「いつまでもばかなことを言ってるがいいさ。わしは、お前のような何も知らない者から攻撃されても、相手にしない。神様に、お前もわしのように長生きさせてもらえるように祈るよ。そうすれば、お前も、世の中にはお前に関係ないことなんか何も無い、ということがわかるだろう。＜みんなつながってる＞注5んだから」

さて、こうして二人が王宮前に着くと、今まさに、バルマの死刑が始まろうとしていました。人々は、憐れみと恐ろしさで押し黙っていました。あまりの静けさに、蚊の鳴く音さえ聞こえそうでした。バルマは、人々の輪の真ん中で跪いていました。その顔には、ひとかけらの恐れも憂いもありません。それどころか、微笑みさえ浮かべているのでした。王様は玉座に座り、「・・・バルマが与に対して行った不敬は、単に与ひとりだけでなく、与の代々の先祖までも誹謗するものである。これほどの冒瀆は血をもって購うほかはない。よって、バルマを死刑にする」と演説を終えました。

首切り役人が刀を構えました。そのとき、ひとりの若者が人々の輪の中から走り出て、王様に言いました。「バルマの着ている美しい服を、それが血で汚れる前に、私にくださるように。なぜなら、その服は私に遺されるものだからです」この若者は、バルマの義理息子、つまり、妻の連れ子でした。

同時に、あの老人も、輪の中から出ました。片方の手で杖をつき、もう片方は孫に支えられて、ゆっくりと、しかし断固とした足取りで、バルマのそばに行きました。そして、まわりの人々に、「バルマはどうして死刑になるのですか?」と尋ねました。人々は答えました。「王様は、どうなさってかはわかりませんが、バルマの頭の房のひとつは＜王様は親戚にはならない＞ということの意味する、とお知りになりました。それで、王様は、ひどく侮辱されたと思ったのです。王様ひとりじゃなく、ご先祖様まで冒瀆されたと」

老人は、それを聞くと、王様のほうに向かって進みました。王様は老人を見つめました。人々の視線も、

バルマから老人に移りました。老人は王様に言いました。「王様は大きなあやまちを犯そうとされています。それは、王様の権威を地に落とし、王国の破滅を引き起こすことでしょうか。なぜなら、第一に、バルマのような智者は、もし王様が彼の言葉をうまく役立てることができるなら、国の宝になるからです。第二に、王様もご存じのように、あなたは、ご先祖以来、バルマと血のつながりがあるからです。ご家族の歴史をわかっておいでなら、あなたのご先祖が王位についたのは、彼の先祖のおかげである、ということもご存じのはずです。あなたとバルマには、互いに守り合わねばならない、という深いつながりがあるのに、それを断ち切ることは、あなたにとって大きな危険であり、災いとなるのではないのでしょうか。」

王様は、老人の言葉に我に返り、バルマの解放を命じました。バルマは、縄を解かれると、立ち上がり、それまでと同じ静かな態度で、王様と老人のところに行きました。そして、まず老人に礼を言い、王様には、人々を解散させるように頼みました。というのは、彼は、これから、まわりに人々には聞かせたくない話をしようと思っていたからです。王様はバルマの言葉に従いました。そして、老人のために腰掛を持ってこさせました。孫は、礼儀正しく、離れたところに控えました注6。

3人だけになったところで、バルマは言いました。「王様、あなたは、事物を観察して得たところの真実のみを語る、無実の人間を殺すところでした。しかし、それは、私があるために告発された4つの真実を証明することになってしまいました。王様はもうおわかりだと思いますが、あらためてお話しするのをお許してください」

こうしてバルマは話し始めました。「一番目の髪房は、次のことを意味します。＜妻にはすべての愛を捧げてよいが、すべての秘密を教えるはならない＞注7です。私は、王様が、どうやってあのこと、ひとつの髪形は＜王様は親戚にはならない＞を意味している、ということをお知りになったのか、わかりません。ですが、確かなのは、この秘密は私の妻からもれたことです。なぜなら、私は、妻にだけ、これを教えたからです。実は、私はわざと教えたのです。一番目の髪房の意味を証明するために。私は妻を決して恨みません。彼女は立派な妻です。もって生まれた性情に従ってしまっただけなのです」

王様は告白しました。「余はバルマの妻を買収させた。金と宝石で飾られた首飾りとひきかえに、髪形の秘密を教えるようにと。何人もの家来が訪ねて行っても、彼女は秘密をもらそうとしないので、私は買収の品物をどんどん増やした。そして、ついに、彼女は負けたのだ」

バルマは話を続けました。「二番目の髪形は、＜義理の親子の間には、共同よりも対抗が生まれる＞を意味しています。もし私の相続人が本当の息子なら、遺品よりも私の命を心配したでしょう。人は、義理の親には、本当の親に対するのと同じ感情は持ってません。当たり前のことです」

バルマはさらに言いました。「三番目はなんでしょう？ ＜王様は親戚にはならない＞でした。親戚のつながりは神聖なものです。楽しいときも苦しいときも、強く結ばれ、寛容、許し、そして保護を伴います。もし王様が、あなたの権力がもたらしたその玉座にお座りでなかったなら、絶対に、私を殺そうとは考えなかったでしょう。たとえ、私があるあなたに対してどのような罪を犯したとしても。あなたは言ったことでしょう。『いずれにしろ、彼は私の身内なのだ』と。私たちを結ぶ血のつながりの神聖さにより、私たちは、互いの対立を解消し、親戚間の第一の決まりである、＜守り合うべし＞を優先したことでしょう。しかし、王様は、ご自身の心の中の法に固執したのです。今、あなたは、それをご自身で証明しました」

「最後に、私は、四番目の真実を明らかにしなければなりません。それは、＜社会には、老人が必要である＞というものです。老人たちの重ねてきた歳、歴史についての知識、人生の経験、そして、死を恐れなことが、王様がやろうとしたことは正しくないし、道徳的にも受け入れがたい、と言わせたのです。社会は

彼のような人を必要とします。たとえ、彼が、経済的にはもう何も生み出せないとしても」

話し終わると、バルマは、もう一度、彼の命を救ってくれた老人にお礼を言いました。そして、王様には、老人の助言を聞き入れてくれたことを感謝しました。本当の暴君なら、それでも、自分の計画を変えなかったでしょうから。それから、「これからも、必要なときはいつでも助言者として王国につかえますので、よろしく願いいたします」と言いました。

王様はすっかり謙虚になり、バルマと老人に、二人が国のためにしてくれたことに対して感謝を述べました。そして、「だが、王の義務のひとつは、王国の法が守られているか、祖先から受け継いだ王国の価値観が尊ばれているかを見守ることである。余は、余の心ではなく、その義務に従って国を治めている、ということも分かってほしい」と言いました。それから、家来に、バルマを馬車で家まで送っていくように命じました。また、老人はロバの車でやってきたと知ると、馬を贈ろうと言いました。老人は、「そのように大きなものはありません。なぜなら、わしはもうほとんどどこへも行きませんし、もうそんなに長くは生きていないでしょうから、このロバで充分です」と辞退しました。けれども、王様が「あなたの子どもや孫たちには必要でしょう」と言って強く勧めたので、老人はお礼を言って馬を受け取りました。

こうして、王様とバルマと老人は別れて、それぞれの住まいに帰りました。セネガルでは、秘密を守りたいとき、別れ際にこう言い合います。「このことは、ここに埋めた！」けれども、この3人の会話は、埋められなかったのでしょうか。こうして、私たちのところまで伝わっていますから。それは当然です。哲学者の目的は、彼の考えを人々に伝えることなのですから。

注1 コッチ・バルマの正式な名前は、Birima Maxuréja Demba Xolé Fall。1586年から1655年に実在した有名な哲学者です。

注2 セネガルでは、祖父母と孫が互いにからかい合います。それは、悪意ではなく、愛情からの習慣です。

注3 口は達者なのに何もやらない、できない人のことをさすことわざです。

注4 セネガルでは、ことわざを語る時、しばしば、「ウォロフのンジャイは…」と始めます。ンジャイは、セネガルに大変多い名前なので、ウォロフの人々の代名詞のように使われます。

注5 セネガルの人々の考え方です。バオバブの会には、この言葉をタイトルにしたオリジナル紙芝居があります。

注6 大人の話が始まったり、お客さんがやってきたら、子どもたちはその場を離れるのが礼儀です。

注7 反論のある方も多いとは思いますが、女性はおしゃべり、というのは日本でもよく言われていますよね。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215